

茨城県立歴史館 一橋徳川家記念室展示 「一橋徳川家の幕末維新」の開催

本展では、下記のとおり、開国から幕府崩壊、そして明治へと向かう激動の時代を一橋徳川家がいかにかに乗り越えたのか、二人の当主（慶喜・茂栄）の人物像に迫りつつ同家が果たした歴史的役割を紹介いたします。時代の息吹を克明に伝える歴史資料とともに、御三卿の家格にふさわしい名品の数々をお楽しみいただければ幸いです。実施内容に関する情報を御提供いたしますので、ぜひ御取材ください。

記

- 一橋徳川家とは** 一橋徳川家は、8代将軍吉宗の四男宗尹^{むねただ}を始祖とします。田安・清水の両徳川家とともに「御三卿」とよばれ、将軍家の身内として処遇されました。11代家斉から15代慶喜に至る将軍は一橋系が占めています。江戸時代後期、御三家（尾張・紀伊・水戸）・御三卿の中で、一橋徳川家は将軍職に最も近い存在となっていました。そして、水戸徳川家から入った9世当主慶喜が15代将軍に就任するにともない、同家には尾張徳川家から茂栄が次の当主として入ることになります。
- 会 期** 令和5年2月11日（土・祝）～令和5年4月2日（日）
開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）
※3月28日（火）は臨時休館
- 場 所** 茨城県立歴史館 一橋徳川家記念室（水戸市緑町2-1-15）
- 出 品 資 料** 36点（うち34点が国重文）
詳細は、別紙1及び別添「出品資料一覧」を御参照ください。
- 関 連 行 事** (1) 日曜歴史館／日時：令和5年2月5日（日）14:00～15:30
会場：当館講堂 定員：先着100名（要事前申込）
担当：当館歴史資料課長代理兼首席研究員 由波 俊幸
(2) 展示解説／日時：① 令和5年2月12日（日）「慶喜をめぐる群像」
② 令和5年3月11日（土）「茂栄と幕府の終焉」
両日共に11:00～、14:00～
会場：当館一橋徳川家記念室（当日受付、要入館券）
担当：当館歴史資料課長代理兼首席研究員 由波 俊幸
- そ の 他** 御取材いただける場合は、事前に下記まで御連絡ください。当日の写真等を御希望の場合も同様をお願いいたします。

【お問い合わせ先】

茨城県立歴史館 管理部教育普及課 担当 石綿孝一郎
TEL：029-225-4425 E-mail：isiwata.kouitirou@mail.ibk.ed.jp

主な出品資料・見どころ

第1章 時代の寵児



国重文 黒塗竹唐草菊葵紋散香盆・沈箱・冠棚 徳信院所用（当館蔵〈一橋徳川家記念室〉）

※出品予定資料一覧No.7～9／徳川慶喜の義母である徳信院が所蔵していた「ひな人形」と共にひな壇に飾られた道具類。源氏絵屏風（No.6）と共にひな壇を模した形で展示予定。



徳川齊昭所用陣羽織（靖国神社遊就館蔵）

※出品予定資料一覧No.14／10～20年ぶりの公開、当館初公開

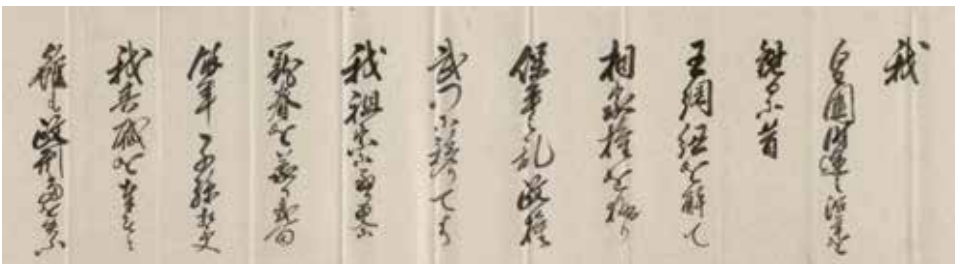
第3章 血筋は巡る



国重文 紫白緞威胴丸具足 徳川茂栄所用（当館蔵〈一橋徳川家記念室〉）

※出品予定資料一覧No.29

第4章 御三卿の終焉



国重文 大政奉還上意書（部分、当館蔵〈一橋徳川家記念室〉）

令和4年度 一橋徳川家記念室展示「一橋徳川家の幕末維新」出品資料一覧【確定版】

会期:令和5年2月11日(土・祝)~4月2日(日)
会場:茨城県立歴史館 一橋徳川家記念室

No.	指定	資料名	年代	数量	当館資料番号
1. 時代の寵児					
1	国重文	(書付)〔松平七郎麻呂一橋家相続之儀ニ付〕徳信院宛	弘化4年(1847)8月25日	1通	L1-931
2	国重文	表章図鑑 二〔御行列之部〕	天保13年(1842)	1冊	H3-2
3	国重文	刑部卿様御婚礼御用留	安政2年(1855)12月	1冊	C3-26
4	国重文	源氏絵屏風〔左隻〕狩野意信筆 徳信院所用	江戸時代後期(19世紀後半)	1隻	
5	国重文	黒塗竹唐草菊葵紋散貝桶 徳信院所用	江戸時代後期(19世紀後半)	1合	
6	国重文	黒塗竹唐草菊葵紋散香盆 徳信院所用	江戸時代後期(19世紀後半)	1口	
7	国重文	黒塗竹唐草菊葵紋散沈箱 徳信院所用	江戸時代後期(19世紀後半)	1合	
8	国重文	黒塗竹唐草菊葵紋散冠棚 徳信院所用	江戸時代後期(19世紀後半)	1基	
9	国重文	黒塗竹唐草菊葵紋散琴箱 徳信院所用	江戸時代後期(19世紀後半)	1合	
10	国重文	会席附 伝徳川斉昭筆	安政4年閏5月5日	1幅	
11	国重文	無色ガラス薩摩切子瓶(蓋付)	江戸時代後期(19世紀)	1対(2点)	
12	国重文	(勅諭控)	安政5年8月8日	1通	L2-79
13	国重文	日記 番頭御用人	安政6年6月	1冊	B1-459
14		徳川斉昭所用陣羽織 ※靖國神社遊就館蔵	江戸時代後期(19世紀)	1領	
2. 動乱の京都で					
15	国重文	(一橋家再相続并後見職就任ニ付家中へ諭書)	文久2年(1862)7月8日	1通	L2-101
16	国重文	(将軍後見職辞職願控) 鷹司輔熙宛	文久3年6月24日	1通	L2-108
17	国重文	東照大権現像 ※3月12日まで展示(以後は写真パネル展)	文久3年3月	1幅	
18	国重文	御直書〔禁裏守衛等仰を蒙るニ付〕	元治元年(1864)4月	1通	L2-127
19	国重文	御出陣中御書付留	元治元年11月-2年正月	1冊	C1-102

No.	指定	資料名	年代	数量	当館資料番号
20	国重文	書送帳	慶応元年(1865)10月-2年3月	1冊	C1-103
21	国重文	(御所江被仰立候御書付控)[將軍職相続二付]	慶応2年7月晦日	1通	L2-162-1
22		一行書「仁者愛人」徳川慶喜筆	江戸時代後期	1幅	

3. 血筋は巡る

23	国重文	(一字書出)[茂] 徳川茂徳(茂栄)宛	安政5年10月13日	1通	A3-3
24	国重文	(徳川玄同(茂栄)一橋家相続之儀被仰出書)	慶応2年12月	1通	L2-209
25	国重文	紫白緞威胴丸具足 徳川茂栄所用	江戸時代後期(19世紀後半)	1領	
26	国重文	脇差 銘「越前住肥後大掾下坂」 徳川茂栄所用	江戸時代初期(17世紀前半)	1口	
27	国重文	黒蠟塗脇差拵 徳川茂栄所用	江戸時代後期(19世紀)	1腰	
28	国重文	大威骨御守	元治元年(1864)	1点	
29	国重文	二大字「至誠」 徳川家茂筆	江戸時代後期(19世紀後半)	1幅	

4. 御三卿の終焉

参考	国重文	大字「誠」 徳川慶喜筆 ※写真パネル展示	慶応3年3月	1幅	H1666-1
30	国重文	(大政奉還上意書)	慶応3年10月	1通	L2-227
31	国重文	(尾越等江御頼二而御差出之御謝罪状控)	慶応4年2月	1通	L2-255
32	国重文	(書付)[徳川慶喜家臣より朝廷への歎願書]	慶応4年2月	1通	L2-257
33	国重文	(慶喜処置二付歎願) 徳川茂栄・徳川慶頼 有栖川宮熾仁親王宛	慶応4年3月	1通	L2-278
34	国重文	(自今藩屏之列二被加候旨被仰出候事) 徳川茂栄宛	慶応4年5月24日	1通	L2-289
35	国重文	一橋廢藩一件	明治3年(1869)-4年	1冊	C1-131
36	国重文	書 老子之御画賛 徳川茂栄筆	安政6年(1859)	1幅	

・No.13「徳川齊昭所用陣羽織」(靖國神社遊就館蔵)以外は、すべて当館 一橋徳川家記念室蔵。
 ・当館資料番号のある文書資料については、当館閲覧室にてデジタル版をご覧いただけます(要事前予約)。